

第22期火災予防審議会地震対策部会第7回小部会開催結果概要

- 1 開催日時
平成28年11月14日（月） 10時00分から12時00分まで
- 2 場所
芝消防署 4階 小会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員（5名、敬称省略、五十音順）
10 市古太郎、糸井川栄一、伊村則子、加藤孝明、坂本大輔
 - (2) 東京消防庁関係者
防災部参事兼防災安全課長、震災対策課長、総合防災教育係長、防災調査係長、防災調査係員5名
- 4 議事
 - (1) 地震対策部会第6回小部会及び地震対策部会第4回部会の開催結果概要について
 - (2) 審議事項
 - ア 本審議における検討の流れについて
 - イ PDCA マニュアルと評価、改善手法について
 - ウ 実地検証の一部結果と残りの実地検証案について
 - 20 エ 実地検証で見えてきた課題について
- 5 配布資料
 - 地小資料7-1 第22期火災予防審議会地震対策部会第6回小部会開催結果概要（案）
第22期火災予防審議会地震対策部会第4回部会開催結果概要（案）
 - 地小資料7-2 本審議における検討の流れ
 - 地小資料7-3 PDCA マニュアルと評価、改善手法
 - 地小資料7-4 実地検証の一部結果と残りの実地検証案
 - 地小資料7-5 実地検証で見えてきた課題
- 6 議事概要
 - (1) 開会
 - 30 (2) 議事
 - ア 地震対策部会第6回小部会及び地震対策部会第4回部会の開催結果概要
事務局より地小資料7-1について説明がなされた。
[議長]
検討の流れを確認した上で今回までに行った訓練の報告と残りの訓練に向けた議論を進めていく。
 - イ 本審議における検討の流れ、PDCA マニュアルと評価及び改善手法について
事務局より地小資料7-2、7-3について説明がなされた。
[委員]
防火防災訓練振り返りシートについて、参加者の感想やアンケート結果を見る前に書くかアンケートの結果を見てから振り返りを行うのでは意味が変わってくるのではないか。
40 [事務局]
全ての訓練で参加者から何かを書いてもらうのは難しい。訓練の中で何かしらのリアクションや手挙げで取れる項目で書けるようにしたい。振り返りシート自体は、訓練前と訓

練後に書いてもらうが、訓練中に取り得るようなデータやリアクションをもとに書くというイメージをもっている。

[委員]

大学の授業評価でも、アンケート結果を見て書くかクローズで書くかによって全く評価が違ってくる。また、訓練で直接見たリアクションとアンケートを書いてもらった内容の意味も違ってくる。検証するにあたって、できるだけ簡単なアンケートで書いてもらいその声をもとに評価し、手応えを持って次の訓練に向けての検討を進めることがポイントになる。現状においては、訓練でのリアクションを基にということだ。

[議長]

10 大学の授業評価は、先生も抵抗がある。消防の人も同じではないか。

[事務局]

一次検証で得たアンケート結果を見ても、参加者が気を遣っているせいか評価がどうしても高くなる。フリーコメント部分の「少し長すぎる」「寒かった」などの部分が重要となってくる。アンケートを取れる場合は、軽く書いてもらい振り返りシートに添付する形がいいと思う。「良かったか」「悪かったか」を聞いても「悪かった」という人はあまりいなかった。

[議長]

大学の授業評価でも実際の評価はフリーコメントが主だと思っている。

[事務局]

20 フリーコメントはなかなか書いてもらえない。だからこそわざわざ書きたいくらいの重要な意見である。フリーコメントを書いてもらえるよう視野に入れて修正したい。

[議長]

残りの訓練で取り入れるのか。

[事務局]

できる限り二次検証での訓練には、修正したものを使用できればと思う。

[委員]

フリーコメントという表現が、書かなくても良いというニュアンスを醸し出しているのではないか。

[委員]

30 参加した人からの評価は高い。参加していない人も入れた時に平均点が下がってくる。参加している人は、既に参加したいと思っている人だからそういった結果になる。

[議長]

フリーコメントを書く敷居を下げ書きたくなるようなアンケートにしなければならない。

[委員]

最初に満足度を聞き、それを判断した理由は何かと聞くと書いて頂ける。

[委員]

振り返りシートの書式的なことだが、どこで誰を対象に実施したのか一目で分からないのでわかりやすい記載にすることで参考にする時に引き易いのではないか。

40 [委員]

振り返りシートは、振り返りシートなだけであって実際の訓練内容については、実施訓練内容のシートがあると良い。

[議長]

振り返りシートでおもしろそうなものを引っ張った時、企画書も一緒に出るようにすることで別の人が簡単に参照できるのではないか。

[委員]

訓練評価項目について、評価の○×と評価の理由は分けるべき。

[委員]

役所でもイベント後にアンケートをやるが、一瞬の評価と事業そのものの成果は違うと思う。1年をかけてPDCAを回しながら1年の取組みとしてどういう成果があったかを評価している。こちらの振り返りシートでは、その時点での評価がそのまま成果のように記録されていくのではないか。事業成果を、振り返りシートのグルーピング化して評価することが大事。

10

[事務局]

振り返りシートの一番下の部分に参考として訓練企画という項目を入れた。イメージとしてはグループ化に近いが、論文評価のような形で何を参考にしたかという一連の流れや大本となる訓練を見つけることができるのではないか。引用された数で効果があるということがわかる。最終的にグループ化につながる。流れの評価も取り入れるような方法でやりたい。

[議長]

先ほどの質問は、非常に重要な質問で、下手すると単発のアイデア評価だけになってしまうかもしれない。そうではなく大きな目的に照らしてどうだったかということを中心に、あるいは庁として蓄積していくようなメカニズムが作れるかどうかということが非常に重要だという指摘だったと思う。振り返りシートというのは訓練企画するときには今回こんな目的でやりたいと思ったときにそれに類似するものがすぐ引けるような形になっていて、引いたものについてその訓練の企画内容についてきちんと追っかけられるようになっているという側面と、庁として蓄積していかなければいけないので、どういう流れで進歩しているか後で全体を見たときに東京消防庁としてそれが見えるような形になっているといい。

20

[事務局]

すべての訓練に振り返りシートを行うのは難しい。多い署では月50～100件防災訓練を行っており、どちらかという町会等を対象とした定例的な訓練が多く、定例的な訓練にPDCAを持ち込んでも新たな企画にはならない部分が非常に多いのではないか。消火器の取り扱いのような訓練ではなくて、最初は新たな人達を対象とした場合の訓練を対象としたらどうか。その場合各署で年間5～6件できれば、庁全体で年間400～500件となる。

30

[委員]

それは署をまたいで過去の訓練を閲覧できるような仕組みを作らなければならないと思うがどうするか。

[事務局]

エクセルか何かに検索し易いようにまとめて定期的に掲示板に掲示し共有してもらうように考えている。

[委員]

エクセルをダウンロードして参考にし、訓練で振り返りシートを作成しそれを掲示板にアップしなければならないのか。

40

[事務局]

そこは、訓練担当と詰めていかなければならない部分だと思うが、担当者宛てにデータ

を送ってもらって本庁で集計し掲示するか検討する。

[議長]

その手間が大変だと思うが。

[事務局]

本来であれば、報告をあげれば自動的にデータベース化される手法が一番いいと思うが。今は、何を入れるべきかを考えなければならないと思う。

[委員]

目的は、類型化しておいた方がいい。いろいろな言葉で書かれると分類するのが難しくなる。

10

[委員]

プルダウンメニューみたいに最初から項目が決まっていて、その他で自由に入力できるようにする方法もある。

[事務局]

目的は、先ほどの樹形図みたいなもので、もう少し整理しなければならないと思う。消防として住民に何をしたいのか具体的な言葉で表現できない。どうしても漠然としたものにしかないので考えていかなければならないと思っている。課題と目的はセットになっていると思うが、結局参加して欲しいという言葉になってしまう。

[委員]

どういう状態になって欲しいかもっと考えなければならない。

20

[議長]

ある程度こちらが例示をして、そこから選べるようにしておけば具体的な方向性を答申として示せる。

[委員]

もしかすると、一つの訓練の中で目的が二つ以上あるかもしれない。

[事務局]

検索の部分の個人的なイメージとしては、インターネット検索のグルメサイトみたいな形が理想である。

[委員]

30

PDCA のアクションの部分はどういうイメージで持つかだと思う。個々の消防署、個々の訓練担当者にとっての PDCA なのか、東京消防庁全体としての PDCA なのか、後者だとするならば、目的とプログラムに応じて結果をグルーピング化し、本庁でアクションの部分グルーピングごとに検証し分析考察するシステムが必要になってくる。なおかつ、消防署をまたいで比較して、アクションを年度ごとに分析や検証をしていくという提言をした方が、大変だがやった方がいいのではないかと思う。

[委員]

振り返りシートは写真等も入れたほうが良い。グルメサイトでも写真が出てくるように。

[事務局]

シートの内容は訓練をイメージできるものとしたいが、報告書になってしまうと集約されすぎてしまう。今も、担当が気になる訓練があると担当のほうで調べたり写真をもったりする等、それをお知らせするというのを継続的にやっている。

40

[委員]

そうなってくるとエクセル等での対応は難しくはなってくるが。

[事務局]

いずれにせよ、そのような形をとっていきたいと考えている。

[委員]

振り返りシートについて、本庁評価とは何を示しているのか。

[事務局]

点数的な要素としている。

[委員]

「評価」という言葉を使ってきているが、ここの「評価」としているものは他の「評価」との意味が違う気がする。ここまでの自署評価は消防署で訓練を実施して、その訓練が妥当だったかどうかという評価だが、例えば大学先生の授業等と同じで、本庁評価とした段階で抵抗感を示す現場の人がいるのではないかと、またそれが自分たちに対する評価と捉えかねないのではと思う。ここでは、その訓練を導入したら効果的かどうか、という評価としているのだと思うが、最終的には本庁サイドが訓練内容を分類したり、規模によって推奨したりするメニューを作るのであって、その訓練がどうであったかは評価できない。

10

[議長]

この内容は追加されたものである。前までは無かった。

[事務局]

事務局側で考えた内容で、先ほどのグルメサイトではないが、何らかの客観的な評価が必要なのではないかと思う。グルメサイトでは食べた人が点数を付けており、それを平均化して、その点数が高い場所へ行くというものである。そこで、これまでの振り返りシートは過去のものを検索する際に、どの訓練が良いのかという、例えば☆が高いのか低いのかというものは、自分の訓練の評価しかなかった。

20

[委員]

将来的に署員同士で使用していったって、これは導入して良かったとして活用されるのは良いが、通信簿のようになってしまうと趣旨が変わってしてしまう。使いやすいかどうか、やりやすいかどうか等、そういう評価の欄であるべきだと思う。

[事務局]

お薦め度といった内容のものか。

[委員]

そういうものである。それは1年目からは難しいかもしれない。また一番下の欄は、この企画は何回参考にされたかどうか、ということの欄なら分かるが、突然、評価しますというものはやはり違う気がする。

30

[議長]

本庁の誰かが評価するということなのか。

[事務局]

使い方としては、お薦め度を本庁で示すものをイメージしている。

[委員]

お薦め度と評価ではかなり違う。

[事務局]

内容としてイメージしていたものはお薦め度なので、参考にされた回数等が直結するイメージである。

40

[委員]

相対的な評価としてのお薦め度なのか、工夫に対する個別のお薦め度なのか分からない。それとも工夫をして実施した個別の訓練のお薦め度なのかもしれないが、その点をは

っきりさせた方が良い。例えば、訓練の内容はできていて、訓練を3種類行って一つ目の訓練をして、二つ目、三つ目と訓練をする、この流れが良いとするということも考えられる。具体的に何を評価するかである。

[事務局]

どの部分や何をお薦めするのかということである。

[議長]

10 評価の仕方やお薦め度の決め方はセットであると思う。但し、参考にされた数としてしまうのではなく、良い訓練とされたものに対し、そのまま参考とするのでもなく、そこに新たなアイデアを加えていくはずだが、数だけが多く参考されているので、皆、当初の訓練に戻ってしまうのではないか。

[事務局]

そうなるのであれば、グループ化が良いのでは。

[議長]

グループ化しておいて、その中の最先端でアイデアが詰まっていて完成度が高いものが常に参照されるような形がとれると理想である。そこで全体を俯瞰している本庁が、最先端の内容はこれですよと示していくのではないかと思う。

[事務局]

20 それが定期的な評価として、1年に1回位に、グループの中で、今、最もお薦めな「訓練」と示していく形になるのかと思う。

[議長]

非常に大変な内容になる。

[委員]

全部の訓練に本庁の人たちが参加して、後ろから見ているのか。

[事務局]

そういったことは困難であるため、内容については書類審査になってしまう。

[議長]

30 書類審査も量が膨大になると、審査する側も大変なのではないか。この点についても工夫が必要である。とりあえずは、本庁評価は無しにしておいて、内容が出てきた段階で考えるので良いのではないか。

[事務局]

どうやって抽出したら良いかなどは考えなくて良いのか。

[委員]

1年目からやろうとは考えず、ある程度内容が集まった時に今後どのように導入しているかと考えた時に、本庁が考えて運用するための指標としていくということだけ決めておけば良いのでは。

[委員]

40 本庁としてどれが一番グループの中でお薦めなのかを考えていく上で、振り返りシートの中で、参考にした訓練企画のどの部分を参考にしたのかという部分が必要であると考えられる。参考にした振り返りシートの工夫1の部分を参考した等といったことである。リレーショナルデータベースになってきてしまう。

[議長]

蓄積の仕方は、後で考えるとして情報は答申の中にしっかりと盛り込む必要がある。また、最近のネット系のデータベースを考えれば色々なことができそうな気がする。

[委員]

ネット系にするのであれば、どこと紐付するかを考える必要がある。

ウ 実地検証の一部結果と残りの実地検証案

事務局より地小資料7-4について説明がなされた。

[議長]

先ほどの振り返りシートとの関係からすると、次回の検証からは新しい振り返りシートを使うのか。

[事務局]

そのほうが良いのではないかと考えている。

10

[委員]

私が参加させて頂いた杉並のマンションの防災訓練は、マンションとしてかなりレベルの高いマンションであったと思う。防災意識や防災の組織体制が整っており、消防署に対し協力できる体制がすでにある。実際、マンション全体の防災訓練が秋にあることに加え、春には自治会役員だけの訓練も行っており、実質年に2回防災訓練をやっている。

訓練を見ていると、役員や元役員は最初から最後まで参加していて、前半だけの参加や途中から参加している人を合わせて75名か、もう少しいる程度であり、レベルとしては高い水準にあったが、それでも大規模なマンションとして参加率が1割程度しかいなかった。残りの9割を参加させる方法を考えるとして、訓練内容を魅力的にしても9割の人間には関係のないことのように取られている。この資料を見ても、高齢者向けや外国人向けの訓練内容が記載されているが、その中でもマンション向けの防災訓練は、敢えて語弊のある言い方をさせてもらおうと、消防署の方にとって手が掛かる割に来てもらえる人が少なく効率が悪い。マンションごとに個別に訓練するのではなく、例えば今年は「非常食を皆で作る」ことをテーマとしたりする等ストーリーを用意してあげることが必要なのではないかと思う。参加者としてはいつも同じ訓練内容で、小学校でも実施しているし、職場でも実施しているし、マンションで今更行う内容ではないのではとと思っている人もいると思う。また、振り返りシートを確認すると、過去にかなり訓練を実施していることも確認できる。なので、マンション一つで実施するのではなく、地域を巻き込んでやる等のストーリーを考えてあげないと、残りの9割の方は参加してもらえないのではないか。隔壁破壊訓練も費用が掛かっているが、それはリピーターにとっては魅力的な訓練かもしれないが、9割の方には魅力的と感じてもらえていない。そういったことが訓練に参加させて頂いて確認することができた。

20

30

[議長]

今後どういった訓練を蓄積していくかという話の中で、マンネリ的、習慣的にやっている部分のバージョンアップやモデルチェンジや新規対象をどう開拓していくかという2つがあり、杉並はマンネリ化に該当するが次のステップとしてマンネリ打破をしていく必要がある。

[委員]

深川の非常食講座はかなり踏み込んだ例だと思う。体験してもらおうということが非常に重要であり、マンションの事例もそうであるが、踏み込んで体験してもらおうということが9割の方に訴求できるかというとな難しくなる。

40

[委員]

名称が防災訓練とフェスタでは、参加者数や参加率が違うのかもしれないという話があるが、意外とそうだったりすると思う。またフェスタの広告の問いかけは非常に興味を惹

く内容であったと思う。「煙の中はどんな感じ」とか「いざ壁を破れ」とかは「隔壁訓練」と書かれるより良いと思う。だから、子どもが行ってみたいと言えば、親は連れて行こうと思う。さらに「ほのお君」って何だろうと思わせたりなどがあるが、もう一つの広告と比べてもタッチが違うので、こういう所が参加率に繋がったりするのではないか。内容が一緒であったとしても効果があると思われる。

[事務局]

どちらの広告も掲示板に掲示したり、チラシを配布したりしたので、どちらも防災訓練が行われるということは伝わっていたとは思われるが、そういった所に差が出たのかもしれない。

10

[委員]

自分が住んでいる地区の話になるが、昨年実施した防災訓練は役員しか参加しなかったが、自治会費も活用して、公園の使用許可を取ってバーベキューと題して消防を呼んで消火訓練も併せて実施したところ人を集めることができた。自治会活動と消防訓練を掛けて実施しても良いのではないかなと感じた。来年はどうしようか検討中であるが、自治会長も良い反応を示してもう一度やっても良いのではないかとやっている。

[事務局]

おっしゃるとおりで、人は食べ物に対し興味をもってくれる。

[委員]

湯せんの水は別だが、水も鍋も使わないビニールを活用した調理もあったがそれも好評であった。

20

東京消防庁の業務外の話になるかもしれないが、自治会と協力してそのようなイベントに参加してもらい、その中で防災的な内容を加えていけば良いのではないかと。

[議長]

企画段階でマンション側のキーパーソンである自治会長等と問題意識を共有した上で、やっていくことが重要だと思う。例えば、ポスターの作成等は消防庁側だけで作成したものなのか。

[事務局]

業者に作成してもらい、消防署側でいくつか案としてマンション防災会に提案して、防災会の中で話し合っ決めてもらった。

30

[議長]

理想は、問題意識を共有し、ポスターくらいなら住民の方でも作れるので住民から逆提案してもらえようプロセスを考えてみたらどうか。

[事務局]

住民側の要望が、9割の人を呼びたいのか定例的な訓練をしたいのか問題意識がずれていて共有化されていない。委員が参加された2回目の訓練は、住民側はおそらく定例的な訓練をやりたかった。防災フェスタという名前にしたらどうかという提案はしたが住民側が、防災訓練という名前がいいという返答があった。組合側の問題点は、9割の人が来ないということではないのではないかと。また、残りの9割の方も参加した方がよいのではないかと住民側に提案する必要もあるのではないかと。

40

[議長]

共有できたものについてはデータベース化していくのがいいと思う。

[委員]

マンションの管理組合は基本的に1年交代、防災会を作っていると5年、10年やられ

る方もいらっしゃる。防災会の一番のきっかけは、要配慮者、要支援者支援である。防災会があることで受け止め方もターゲットの絞り方も変わってくる。

[事務局]

今回の訓練は、一回目も二回目も防災会があるマンションであった。比較的防災意識が高いマンションであったがそれでも初めての参加者もいた。しかし、そこを全部攻めていくというのは難しい。マンション等の建物のくくりではなく、幼稚園や学校等のコミュニティーを単位としてやってもらうのがいいのではないかと思う。

[委員]

10

議長がご指摘になったところで、事前に管理組合や当事者側と消防署が直接打合せをすることは非常に重要なことであると思う。現在の報告書では、消防署と本庁の打合せと同じくくりになっているのでそこは別けて整理した方が良い。

[議長]

欠けていた部分ではあるが、投入するマンパワーに対する効果も重要である。

[委員]

振り返りシートにもどれだけのマンパワーを投入したか記入するべきである。

[議長]

どのようなバランスがいいか。

[事務局]

20

訓練内容によるが、消火器の訓練では充填作業の人員も必要になる。救命講習に関しては、東京防災救急協会では1人に対して約10名教えるようになっている。

[議長]

目安として、指導者1人に対して10人だったらいいのではないか。

[委員]

効率の悪さから考えると、そういった訓練に関しては防災会でやってもらい、現地で行うのは、そこじゃないとできない訓練をやる。

[議長]

訓練の中での共助を活かさなければ従来のやり方のままだと消防署の負担が大きすぎる。

[事務局]

30

場所によっては、500弱の町会がある地域もある。町会ごとに訓練をやると負担が大きき手が回らない。本来ならば、その辺りも含めてどうやっていくか考えなければならない。

[委員]

町会にとっては、町会単位でやってもらわないと困るという意識は当然ある。町会としての防災に対するマネジメントの部分と単純に防災のスキルを学ぶという部分は分けて考えた方が良い。

[事務局]

町会が自律してくれるように働きかけなければならない。呼ばれたから行くのではなく、自主的な訓練の一部を消防署が担当する方向に持っていかないと立ち行かなくなってしまうのではないかと思う。

40

[議長]

消防署と地域との関係性をもう一度見直して、訓練の過程から共助の力を引き出すことを位置付けていくことが重要である。

[委員]

目的の設定から町会の方にやってもらう。

[委員]

町会自治会のイベントに呼ばれてやる訓練は受動的な訓練であって PDCA の対象にはならないとあったが、例えパーツ部分を受け持っていて、そこに意味を見出したり事前にいろいろな打合せをして意味付けをしていくことができると思う。我々のところにも町会自治会の方は来るが、とても訓練だけで人は集まらないのでイベント化している。その中で課題となっている部分を組み入れていくか考え、相手の土俵に合わせてやっていく方が成功するのではないか。東京消防庁の範囲の中で訓練をやっていく上では、市区町村とそもその役割分担や目標の共有をしっかりとっておき、東京消防庁じゃないとできない部分と意識の醸成等の自治体がお膳立てする部分がある。コミュニティーが希薄になっている問題に関しては、自治体の方が深刻に受け止めている部分もあり利害が一致する部分が多くあると思う。そこを含めて作戦を組んでいけたらいいと思う。

10

[事務局]

区市によって、防災に関する温度感が違うが話合って協力していかなければならないと思う。

[委員]

訓練の継続性は保証されていないが、地域のイベントは必ず毎年盛り上がって行われているのでそこに乗かってやったほうがいいと思う。

[委員]

20

おっしゃったようにイベントに乗かってやるのも確かに一考である。

[事務局]

イベントに乗っかるという部分では、東京消防庁内でもすすめているが課題と目的の整理がうまくできていない部分である。勧誘という意味では、広報としての効果は高い。我々が、訓練の中で何を広報したいのかしっかり考えた上でそこに参加するという段階が必要である。

エ 実地検証で見えてきた課題について

事務局より地小資料 7-5 について説明がなされた。

[委員]

30

今の議論に付け加えるとしたら、既存の組織との連携を介したネットワークも考えられる。

[委員]

PDCA の話として考えると、自治会との問題意識の共有や防災訓練としての役割分担や主体性を PDCA として回していくようにしていかなければならない。

[議長]

自治体との役割分担についても何かしらの報告をいれなければならない。

[事務局]

画一的には、自治体の温度感もあるので難しい。

[議長]

40

今の議論からいくと、東京消防庁の役割が拡大するが、その歯止めがかからないまま議論が進行していく気がするので基本的なところは、押さえておいた方が良く思う。

[委員]

町会自治会に自律を促していき、消防じゃないとできないことにきっちり枠組みをしていかないといけない。

[議長]

入口の部分の役割分担やコラボレーションについてどうするか考えていかなければならない。

[委員]

初期消火も大事ですが、今は避難所開設運営訓練にシフトしている。震災直後の一時的な話と被災状況によっては長期間に及んでしまう避難生活のどちらに重きを置いて訓練をやりたいか問うと避難所運営訓練をやりたいというニーズがとても高い。場合によっては、今までの初期消火訓練に充てていた時間が減り、更に今まで参加していた人も参加しなくなるかもしれないので、今まで以上にやり方を考えて自治会と相談してやっていかなければならない。

10

[事務局]

個人的な考えになるが、避難所運営訓練は、ある程度の範囲で集まってやる方が効率がいいのではないか。

[委員]

避難所運営訓練は、時間がかかる上、ひとりひとり役割分担があるので初期消火訓練を併せてはできないので消防が担当する場面はない。

[庁内関係者]

消防は、初期消火訓練だけではない。避難所運営での話をすると、例えば避難所内で再び大きな地震が起きた場合、避難者が安全な場所に避難するような避難訓練、起震車を使った身体防護訓練を行うことは可能である。確かに、避難所運営訓練と初期消火訓練は共通する部分がないのでやりづらいとは思いますが区市等の他機関と連携していかないと訓練が進まないと思っている。この部分については、現在検討中であり積極的に働きかけていきたいと思っている。

20

[議長]

市民感覚的には、両者が分離していること自体が不思議である。

[庁内関係者]

都民は、身を守る訓練や消火訓練よりも水や食料、避難所の話の方に意識がある。

[事務局]

実際の時系列的には、身体防護、初期消火から避難所運営という流れになると思う。

30

[委員]

地域の防災力の中では、初期消火チームと避難所開設のチームがあるという全体の話をしなければならぬ。しかし、東京では市区町村と消防が同席して地域住民に話をする場面がない。

[事務局]

おそらく両者が別々に町会に話している。

[議長]

連携の実態を抑えてもらって報告に記述した方がよい。

(3) その他

事務局より第5回部会及び第6回部会の開催日程について連絡した。

40

(4) 閉会